

令和4年度
和歌山市立博物館館報

No. 38

館報 38 号 目 次

I 事業概要

1. 展観事業

常設展示	2
春季企画展	2
夏季企画展	3
夏季企画展	5
秋季特別展	8
冬季企画展	11
企画展	11
ホール展示	12
コーナー展示	12

2. 教育普及事業

講座等	13
学習相談会	13
出張展示	13
校区探検	13
博物館実習	13
ミュージアムボランティア	14
職場体験	14
ウェブサイト・SNS	14

3. 調査研究事業

職員の執筆文献	14
職員の教育普及活動	15

4. 市史資料管理事業

5. 博物館基本計画の取組

II 収蔵資料概要

1. 受贈資料概要

2. 資料の貸出

3. 映像資料概要

III 令和5年度の展望

1. 令和5年度事業予定概要

2. 令和5年度博物館当初予算

IV 資料

入館者の動向	20
アンケートの集計	21
館機構	23
博物館職員	23
和歌山市立博物館協議会委員名簿	23
和歌山市立博物館条例	24
和歌山市立博物館条例施行規則	29

I 事業概要

1. 展観事業

○常設展示

1階の常設展示室では、「資料が語る和歌山の歴史」をテーマとして、原始、古代、中世、近世、近代、民俗の6つの展示部門に分け、それぞれ関連資料を展示している。

当館では、これまで常設展示室の大規模な展示替えは行っていないが、本年度は原始、古代、近世、近代、民俗の各展示部門において順次展示替えを行った。主な展示替えを行った資料は次のとおりである。

原始 重要文化財大谷古墳資料(馬冑、鏡板付轡、剣菱形杏葉、ミニチュア農工具、滑石製管玉、ガラス製勾玉、円筒埴輪)、金製勾玉、楠見遺跡須恵器、中国ハニ族穂積み具

古代 川辺遺跡須恵器、和同開珎

近世 徳川吉宗肖像、徳川吉宗黒印状、和歌浦尽硯箱、置上作白菊蛤香合、青織部杏形茶碗「和歌浦」、南紀男山焼紀三井寺図水指、菓子木型(和歌の浦)、徳川頼宣肖像、徳川治宝筆「眉寿」、本居内遠筆和歌、李梅溪筆父母状、李梅溪・詩書屏風、偕楽園焼赤楽舟引香合、南紀男山焼根上松図水指、吹上白菊香合、菓子木型(初薫り)、徳川治宝筆一行書「出門天地春」、徳川治宝筆寒牡丹図

近代 忍冬酒徳利、菓子木型

民俗 和歌祭面掛行列・仮面

このほか、民俗コーナーの一部の展示ケースを利用して「コーナー展示」を定期的に行っている(コーナー展示については別項参照)。

○春季企画展

「新収蔵品展」

〈開催期間〉

3月12日(土)～5月15日(日)

〈開催日数〉54日(うち令和4年度37日)

〈入館者数〉877人(うち令和4年度559人)

〈開催趣旨〉

当館は、郷土和歌山の歴史に関わる資料の収集を行っている。本展覧会では、近年新たに寄贈もしくは購入した資料を展示し、新収蔵資料と博物館の資料収集活動を紹介した。



〈出陳目録〉

No.	資料名	受贈資料
1	徳川吉宗 騎馬図・野馬図	○
2	洛中洛外図屏風	○
3	筑紫翠雲筆 山水図屏風	○
4	榎本遊谷筆 仁王図屏風	○
5	箏	○
6	梅蒔絵弁当箱(提重)	○
7	鷹の羽紋蒔絵湯桶	○
8	草花文蒔絵手拭掛	○

9	葵紋蒔絵五段重箱	○
10	葵紋広蓋	○
11	瑞芝焼 饅頭蒸器	○
12	太田焼 海鼠釉 花瓶	○
13	和歌山焼 徳利	○
14	刀 銘 於南紀文殊重国造之	○
15	野呂介石筆 竹石図	○
16	野呂介石筆 三行書	○
17	野際白雪筆 雪景山水図	○
18	野際白雪筆・本居大平賛 菖蒲甲兜図	○
19	古典籍（一部）	○
20	県立和歌山高等女学校 卒業アルバム	○
21	算法一覽記（写）	○
22	多紀仁之助著『和中魂』	○
23	万葉集略解（写）	○
24	森月航筆・本居大平賛 立雛図	○
25	猪飼太郎助高道「故郷の仁志木」、「旅の寿佐飛」	○
26	官幣大社 竈山神社御絵葉書	○
27	猪飼半之允（6代）系譜・親類書 猪飼次郎助（5代）系譜 猪飼太郎助（4代）勤書控	○
28	壬寅元旦試毫	○
29	故々呂廻華	○
30	百味筆筒	○
31	和漢三才図会（一部）	○
32	医学書・文芸書（一部）	○
33	高松近傍地図	○
34	菓子木型	○
35	『新説日本史』下巻 『中等漢文教科書』巻三	○
36	和歌山郵便局写真アルバム	○
37	をのえ足袋	○
38	榎本遊谷筆 和歌祭図	
39	奥村直常画 和歌浦画卷	
40	冷泉為村 和歌「和歌の浦友鶴の歌」	
41	本居宣長 和歌「玉津島歌」	

42	玉津島明神衣通姫之図	
43	岩瀬広隆筆 鉄砲ガニと鶴図	
44	笹川遊原筆 和歌祭図	
45	野際蔡春筆 和歌祭図	
46	和歌御宮行列絵巻	
47	徳川治宝筆 富嶽秋景図	
48	徳川治宝筆 牡丹之図	
49	安藤直次肖像	
50	三浦家茶屋夜雨荘掲額	
51	三楽園焼 更紗手菓子器	
52	弓 銘 木村左内（花押）、明月・勁風	
53	桑山玉洲筆 雪景山水図	
54	李梅溪・祇園南海 扁額「寿山」「龍」	
55	岩瀬広隆筆 年中行事図	
56	山澤與平筆 鳥獸戯画図	
57	山中信古筆 増訂南海包譜 上辻木海筆 柑橘図絵	
58	北澤楽天筆 南方熊楠肖像	
59	浪蒔絵簾貝香合	
60	了入作 分銅型香合	
61	菊香合	
62	松木彫鶴香合	
63	吹上香合	
64	奥山田遺跡出土品	○

○夏季企画展

「有吉佐和子と和歌山」

〈開催期間〉6月4日(土)～8月14日(日)

〈開催日数〉61日

〈入館者数〉1,654人

〈開催趣旨〉

有吉佐和子は和歌山市出身の作家で、数多くのベストセラー作品を生み出し、和歌山を舞台とした作品を多く残したことで知られる。令和4年6月5日、和歌山市内に記念館がオープンすることに合わせて本展覧会を実施した。

本展覧会では、日本近代文学館等で保管されていた資料、および当館の収蔵資料等を展示し、創作過程をさぐるとともに、『紀ノ川』など有吉佐和子作品に描かれた和歌山の歴史・文化を紹介した。

〈展示構成〉

I 有吉佐和子の生涯

II 有吉佐和子書いた和歌山の歴史

〈講座〉

7月30日(土) 14時～15時 50人、

8月13日(土) 10時30分～11時30分 20人

「有吉佐和子と和歌山」小橋勇介(当館学芸員)



〈出陳目録〉(備考に記載のないものは個人蔵)

I 有吉佐和子の生涯

No.	資料名	備考
1	大和歌山市商業案内図	館蔵
2	一時帰国した有吉佐和子(写真)	
3	家族写真	
4	バタビア時代の有吉佐和子(写真)	
5	バタビア日本人小学校同窓会名簿	
6	有吉眞次印(アルファベット・漢字)	
7	ライター	
8	たばこ入れ	

9	県立和歌山高等女学校絵葉書	館蔵
10	県立和歌山高等女学校時代の写真	
11	県立和歌山高等女学校時代の写真	
12	作文「椿」	
13	ロザリオ	
14	洗礼のお祝い等のカード	
15	洋裁帳	
16	光塩高等女学校卒業証書	
17	都立第五女子高等学校時代の写真	
18	作文「自己嫌悪」	
19	東京都立第五女子高等学校卒業証書	
20	東京女子大時代のノート	
21	東京女子大時代のレポート	
22	東京女子大時代の英作文	
23	「Style Book」(洋裁帳)	
24	東京女子大学時代の写真	
25	東京女子大学短期学部卒業証書	
26	『演劇界』編集部からの葉書	
27	名刺(『演劇界』囑託時代)	
28	「父を語る」(『演劇界』連載切り抜き)	
29	アドルフ・クラレンス・スコット画「佐和子像」	
30	名刺(吾妻徳穂秘書時代)	
31	「落陽の賦」自筆原稿	
32	『白痴群』6号(「落陽の賦」掲載)	
33	「盲目」自筆原稿	
34	「ぶちいぬ」自筆原稿	
35	『文学界』昭和31年1月号(「地唄」掲載)	
36	「雪狐々姿湖」台本	
37	「雪狐々姿湖」パンフレット	
38	「泥かぶら」台本	
39	「泥かぶら」パンフレット	
40	「白い山吹」台本	
41	「白い山吹」パンフレット	
42	「ケイトズヴィル事件の九人」関係資料	

43	テレビ「作家の横顔」台本	
44	サラ・ローレンス・カレッジ関係資料	
45	『女二人のニューギニア』自筆原稿	
46	1968（昭和43）年手帳	
47	アルバム（ハワイ大学招聘中の写真）	
48	ハワイ大学講義資料	
49	パスポート	
50	日本文学代表団の訪中写真	
51	愛用の三味線	
52	愛用の着物	
53	愛用の着物	
54	藪内休々斎筆「心広體胖春」	
55	こどもの日茶会・短冊	
56	俳句書付	
57	茶会の写真	
58	『出雲の阿国』自筆原稿	
59	中尾進画『出雲の阿国』挿絵	
60	1966年の文藝手帖	
61	「真砂屋お峰」自筆原稿	
62	舞台「真砂屋お峰」パンフレット	
63	映画「香華」パンフレット	
64	演劇「芝桜」パンフレット	
65	舞台「和宮様御留」	
66	『恍惚の人』自筆原稿	
67	『複合汚染』自筆原稿	
68	『複合汚染』取材メモ	
69	文士劇写真	
70	文士劇「助六」台本	
71	セーター	
72	梅原龍三郎画「有吉佐和子女士像」	
73	自筆スコアブック	
74	ビデオテープ	
75	銀製宝石箱（第6回女流文学賞賞品）	
76	鏡（第6回婦人公論読者賞賞品）	

77	『紀ノ川』自筆原稿	
78	『紀ノ川』取材メモ	
79	和歌山県管内図（書き込みあり）	
80	「紀ノ川」切り抜き	
81	有吉佐和子自筆色紙	
82	映画「紀ノ川」パンフレット	
83	映画「紀ノ川」台本	
84	高橋みよの小学校卒業証書	
85	紀ノ川変遷図	
86	水揚帳	
87	紀伊国名所図会	館蔵
88	木造の北島橋（古写真）	館蔵
89	綿ネル晒し（古写真）	館蔵
90	紀の川での遊泳（古写真）	館蔵
91	大福帳（木本家）	
92	小作米受取控	
93	申御年貢通并こし米	館蔵
94	町大年寄御用留	館蔵
95	木本村・西庄村山絵図	館蔵
96	和歌山市立木本小学校感謝状	
97	木本八幡宮感謝状	
98	『華岡青洲の妻』自筆原稿	
99	華岡青洲肖像	館蔵
100	華岡青洲筆「彩鳳舞丹雲」	
101	治験図巻	館蔵
102	重訂本草綱目	館蔵
103	華岡青洲墓誌銘 仁井田好古撰	館蔵
104	コロンメス・バヨネット型ハサミ（複製）	館蔵

○秋季企画展

「発掘された江戸時代の暮らし」

〈開催期間〉9月17日（土）～10月16日（日）

〈開催日数〉25日

〈入館者数〉815人

〈開催趣旨〉

近年行われた和歌山城跡及び鷺ノ森遺跡におい

II 有吉佐和子が生きた和歌山の歴史

No.	資料名	備考
-----	-----	----

る発掘調査の出土品を展示し、和歌山城三の丸や城下町での人々の暮らしを紹介した。

〈展示構成〉

- I 全国各地の土器類
- II 三の丸の暮らし（和歌山城跡の発掘調査）
- III 町家の暮らし（鷲ノ森遺跡の発掘調査）



〈出陳目録〉(備考に記載のないものは和歌山市蔵)

I 全国各地の土器類

No.	資料名	備考
1	備前焼	
2	丹波焼	
3	大谷焼	
4	肥前陶器	
5	肥前磁器	
6	堺焼	
7	三田焼	
8	信楽焼	
9	南紀男山焼	
10	瀬戸美濃焼	
11	中国製磁器	
12	和歌山城下町絵図(複製)	館蔵
13	岩瀬広隆筆「年中行事図」	館蔵

14	天保風俗図	館蔵
----	-------	----

II 三の丸の暮らし(和歌山城跡の発掘調査)

○安藤帯刀家

1	安藤家系譜	館蔵
2	安藤直次肖像	館蔵
3	和歌山城跡石組暗渠(遺構番号69・72・75・77)・石組櫛出土品(76)	

○水野土佐守家

4	水野家系譜	館蔵
5	和歌山城跡土坑(119)出土品	

○上野七太夫家

6	和歌山城跡土坑(179)出土品	
7	和歌山城跡土坑(176)出土品	

○松平主水家

8	和歌山城跡土坑(843)出土品	
9	和歌山城跡土坑(1201)出土品	
10	和歌山城跡土坑(1203)出土品	
11	和歌山城跡地鎮遺構(1082・1083・1115・1613)出土品	

○松平図書(九郎左衛門)家

12	和歌山城跡土坑(2603)出土品	
13	和歌山城跡土坑(2942)出土品	
14	和歌山城跡土坑(2682)出土品	
15	和歌山城跡土坑(2886)出土品	

○津田兵部右衛門家

16	和歌山城跡土坑(666)出土品	
17	和歌山城跡土坑(804)出土品	
18	和歌山城跡土坑(2740)出土品	
19	埋甕(841)出土品	

○評定所

20	和歌山城跡第39次調査出土品	
----	----------------	--

III 町家の暮らし(鷲ノ森遺跡の発掘調査)

○鍛冶作業

1	鬼瓦	
2	軒丸瓦	

3	軒平瓦	
4	箱フイゴ	館蔵
5	フイゴ羽口	
6	鉄滓、金床	
7	フイゴ羽口	
8	ルツボ、トリベ	
9	砥石	
10	火打石	

○部屋のあかり

11	灯明皿	
12	たんころ (ひょうそく)	
13	油差し	
14	油壺	
15	寛永通宝	
16	天保通宝	
17	雁首銭	

○水を汲む

18	釣瓶	
19	井戸瓦	
20	水甕	
21	柄杓	

○食事の支度

22	播鉢	
23	炮烙	
24	鍋	
25	木製蓋	

○食事の場

26	高足膳	館蔵
27	肥前磁器 茶碗	
28	肥前磁器 皿	
29	肥前磁器 鉢	
30	木製箸	
31	焼塩壺	
32	肥前磁器 鉢	
33	肥前陶器 鉢	
34	湯飲み茶碗	
35	南紀男山焼 急須	

○暖房道具

36	焜炉	
37	火鉢	
38	火箸	
39	十能	
40	金属製十能	

○文字を書く

41	硯	
42	水滴	
43	木札「西魚町」	

○囲碁と双六

44	碁盤	館蔵
45	碁石 (貝、石、焼物?)	
46	双六盤	館蔵
47	骨角製サイコロ	
48	骨角製駒	

○子ども遊び

49	泥面子	
50	土人形	

○タバコを一服

51	タバコ盆	館蔵
52	煙管	
53	灰落とし	

○お茶を一杯

54	肥前陶器 天目茶碗	
55	肥前陶器 茶碗	
56	瀬戸 沓茶碗	
57	瓦質 茶入れ	
58	肥前陶器 皿	
59	備前焼 建水	

○お酒をいっぱい

60	白磁 徳利	
61	大谷焼 徳利	
62	備前焼 徳利	
63	白磁 忍冬酒 徳利	館蔵
64	大谷焼 忍冬酒 徳利	
65	染付 盃洗	

66	小杯（各地）	
----	--------	--

○眠り

67	瀬戸焼 陶枕	
----	--------	--

○趣味の世界

68	植木鉢	
----	-----	--

69	鳥の餌入れ	
----	-------	--

○生産

70	瓦漏	
----	----	--

71	墨採取用土器	
----	--------	--

○再利用

72	漆継土器、焼継土器	
----	-----------	--

73	石臼	
----	----	--

74	豊島石	
----	-----	--

○装い

75	かんざし	
----	------	--

76	櫛	
----	---	--

77	櫛払い	
----	-----	--

78	油壺	
----	----	--

79	紅が付着した土器	
----	----------	--

80	紅皿	
----	----	--

81	お歯黒壺	
----	------	--

82	鬢盥	
----	----	--

83	下駄	
----	----	--

○祈り

84	瓦猿	
----	----	--

85	瓦猿（現代）	個人
----	--------	----

86	瓦牛	
----	----	--

87	瓦牛（現代）	個人
----	--------	----

88	胞衣壺	
----	-----	--

89	お神酒徳利	
----	-------	--

90	仏飯具	
----	-----	--

○秋季特別展

「表千家とわかやま

—紀州藩における交流—

〈開催期間〉 11月5日(土)～12月4日(日)

〈開催日数〉 25 日

〈入館者数〉 1,817 人

〈開催趣旨〉

寛永19年(1642)に表千家4代・江岑宗左が紀州徳川家に出仕し、以後江戸時代を通じて、表千家は紀州徳川家に仕え続けた。また、紀州徳川家の歴代藩主は、表千家の茶道を保護し、繋がりをも深めた。本展覧会では、表千家と和歌山との関係を、紀州藩主や藩士との交流などを通じて紹介した。

〈展示構成〉

- I 江岑の出仕と家老・三浦家との交流
- II 表千家歴代と紀州徳川家
- III 徳川治宝と表千家

〈講演会〉

11月13日(日)14時～15時30分 39人

「紀州徳川家・尾州徳川家の御茶道職の変遷と特色」水野荘平氏(愛知学院大学非常勤講師)

11月26日(土)14時～15時30分 73人 「江岑宗左、和歌山へ」山下奈津子(当館学芸員)

〈展示解説〉

11月23日(水・祝)14時～15時 35人

山下奈津子(当館学芸員)

特別展 **表千家とわかやま**
紀州藩における交流

和歌山市立博物館
〒640-8222
和歌山市橋本町3-2
TEL 073-423-0003
www.wakayama-city-museum.jp

令和4年
11月5日(土)～12月4日(日)

講演会
時間/午前10時～午後3時30分
会場/和歌山市立博物館 2階 講義室
※参加には事前申し込みが必要
11月23日
「紀州徳川家・尾州徳川家の御茶道職の変遷と特色」
愛知学院大学非常勤講師 水野荘平氏
11月26日
「江岑宗左、和歌山へ」当館学芸員 山下奈津子

展示解説
11月23日(水・祝) 午後2時から

開館時間/午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日/月曜日、11月24日(※)
入館料/一般500円(600円) 高校生以下無料

※和歌山が発行する意見書利用可能なお持ちの方は、本人のみ無料
※身体障害者手帳、療養手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方がその全額入館無料
※1日1回入館以上の入館料を ※11月5日(土)～11月23日(水)の期間のみ6名まで入館料にのみ、入館無料
※新型コロナウイルスの感染状況で、本展覧会の内容が変更になる場合があります。

〈出陳目録〉

I 江岑の出仕と家老・三浦家との交流

No.	資料名	備考
1	宗旦書状(寛永10年正月24日付・十三郎宛)	表千家不審菴
2	宗旦書状(寛永10年2月12日付・十三郎宛)	表千家不審菴
3	宗旦書状(寛永18年11月17日付・千宗左宛)	表千家不審菴
4	宗旦書状(寛永18年12月晦日付・宗左宛)	表千家不審菴
5	徳川頼宣肖像	館蔵
6	千宗左系譜	和歌山県立文書館
7	宗旦書状(慶安2年12月9日付・宗左宛)	表千家不審菴
8	三浦家系図伝 完	館蔵
9	あだ物語(写)	個人蔵
10	大笑記(写)	館蔵
11	三浦家茶屋夜雨荘掲額	館蔵
12	江戸出府日記	和歌山大学紀州経済史文化史研究所
13	江戸出府日記	和歌山大学紀州経済史文化史研究所
14	江戸出府日記	和歌山大学紀州経済史文化史研究所
15	江戸在府日記	和歌山大学紀州経済史文化史研究所
16	留帳	和歌山大学紀州経済史文化史研究所
17	寛文十年戌四月より茶之湯覚	表千家不審菴
18	狩野興甫筆 白衣観音図	館蔵
19	狩野興甫筆 東坡乗驢図	和歌山県立博物館
20	知人衆之覚	表千家不審菴
21	紹鷗香箱之絵図	表千家不審菴
22	寛文四辰ノ紀州ニ而道具留書	表千家不審菴
23	留帳	和歌山大学紀州経済史文化史研究所

24	留帳	和歌山大学紀州経済史文化史研究所
25	江戸在府日記	和歌山大学紀州経済史文化史研究所
26	留帳	和歌山大学紀州経済史文化史研究所
27	江戸在府日記	和歌山大学紀州経済史文化史研究所
28	江戸在府日記	和歌山大学紀州経済史文化史研究所
29	茶会記控	和歌山大学紀州経済史文化史研究所
30	留帳	和歌山大学紀州経済史文化史研究所
31	留帳	和歌山大学紀州経済史文化史研究所
32	長入作 御紋茶碗	表千家不審菴

II 表千家歴代と紀州徳川家

No.	資料名	備考
1	和歌浦松中棗 葵御紋袋(一双のうち)	表千家不審菴
2	桑原茶碗	表千家不審菴
3	覚々斎筆 不二画賛	表千家不審菴
4	騎馬図・野馬図	館蔵
5	覚々斎筆茶会記(『ワか山 むまのとし むかしやいまに茶湯ひかへ覚元禄 登 十六 極之』)	表千家不審菴
6	啐啄斎筆 富士図	館蔵
7	啐啄斎筆 萬歳緑毛亀画賛	館蔵
8	茶会記「寛政四(五)年丑七月十一日 於御座之間 御茶之湯 御道具附 主 千宗左」	表千家不審菴
9	有明茶壺	個人蔵

III 徳川治宝と表千家

No.	資料名	備考
-----	-----	----

1	徳川治宝筆 牡丹図	館蔵
2	徳川治宝筆 松鶴図	館蔵
3	徳川治宝筆 龍図	和歌山県立博物館
4	徳川治宝筆 富嶽秋景図	館蔵
5	了々斎好 華竹三日月香合	表千家不審菴
6	南紀高松焼 染付了々斎好 唐銅広口写 末広水指	館蔵
7	二重切竹花入 銘都の外	個人蔵
8	宙宝和尚筆 吸江斎斎号	表千家不審菴
9	吸江斎筆 一行書「萬々歳」	表千家不審菴
10	吸江斎作茶杓 銘武さし野	表千家不審菴
11	吸江斎作竹置尺八花入 銘 幾千とせ	表千家不審菴
12	西浜御殿舞楽之図	館蔵
13	偕楽園焼 白釉洲浜香合	和歌山県立博物館
14	偕楽園焼 黒楽古形洲浜香 合	和歌山県立博物館
15	偕楽園焼 赤楽つくね蓋置	和歌山県立博物館
16	偕楽園焼 緑釉竹節蓋置	和歌山県立博物館
17	偕楽園焼 黒玉香合	和歌山県立博物館
18	偕楽園焼 雀香合	館蔵
19	偕楽園製 紅南京写 柿香合	表千家不審菴
20	分銅型香合	館蔵
21	偕楽園焼 赤楽炮烙	和歌山県立博物館
22	三木町棚	館蔵
23	吸江斎作茶杓 南天(西浜御 殿御庭)	表千家不審菴
24	岩瀬広隆筆 伊達千広肖像	館蔵
25	偕楽園焼 灰釉平茶碗 銘 新樹	和歌山県立博物館
26	偕楽園焼 白釉巖雪写茶碗	和歌山県立博物館
27	偕楽園焼 赤楽加賀光悦写 茶碗	館蔵
28	偕楽園焼 交趾写二彩寿字 文花生	館蔵
29	徳川治宝筆 一行書「青松 多寿色」	館蔵

30	偕楽園焼 交趾写二彩紫葉 水指	館蔵
31	交趾釉月梅図皿	和歌山県立博物館
32	偕楽園製 寿の字水指	表千家不審菴
33	葵紋金襴手茶碗	表千家不審菴
34	吸江斎好 吹上菊香合	館蔵
35	永楽保全画 大綱和尚賛 狐和尚図	個人蔵
36	置上作白菊蛤香合	館蔵
37	菓子木型 銘初薫り	館蔵
38	吸江斎好 菊置上曲水指	表千家不審菴
39	南紀産 月日貝香合	表千家不審菴
40	浪蒔絵簾貝香合	館蔵
41	松木彫鶴香合	館蔵
42	徳川斉順筆 一行書「忠信」	館蔵
43	赤坂御庭図画帖	館蔵
44	清寧軒焼 赤楽茶碗 銘福 禄寿	和歌山県立博物館
45	清寧軒焼 黒楽茶碗 銘妹 嶋夕照	和歌山県立博物館
46	清寧軒焼 赤楽熨斗絵筒茶 碗	館蔵
47	清寧軒焼 赤楽茶碗	館蔵
48	清寧軒焼 織部写輪花菓子 鉢	館蔵
49	清寧軒焼 黒輪蓋置	和歌山県立博物館
50	清寧軒焼 赤楽結文形香合 銘玉章	和歌山県立博物館
51	紀伊国名所図会 後編卷四	館蔵
52	南紀男山焼 染付紀三井寺 図水指	館蔵
53	南紀男山焼 雲龍手写茶碗	表千家不審菴
54	南紀男山焼 色絵花蝶文花 生	館蔵
55	南紀男山焼 色絵花蝶文盃	館蔵
56	養翠亭焼 染付六角火入	館蔵
57	南紀高松焼 筒花生	館蔵

58	鈴木雲溪筆 鈴丸焼釜場図	館蔵
59	瑞芝焼 青磁耳付花生	館蔵
60	瑞芝焼 青磁文房具	館蔵
61	瑞芝焼 青磁菊透文手焙	館蔵

〈関連行事〉

特別展期間中、表千家同門会全国大会式典(11月8日)及び近畿高等学校総合文化祭和歌山大会茶道部門(11月20日)で特別展に係る講演を行った。

○冬季企画展

「歴史を語る道具たち」

〈開催期間〉

令和5年1月11日(水)～2月26日(日)

〈開催日数〉40日

〈入館者数〉2,661人

〈開催趣旨〉

当館は、開館以来、市民の皆様からご寄贈いただいた様々な民具を所蔵している。それらは、かつて和歌山に暮らした人々の生活を知ることのできる貴重な資料である。本展覧会は、小学校3年生の社会科授業と連携し、子どもたちに昔の暮らしを学んでもらう教育プログラムの一環とした。また、昔の思い出を懐かしむ市民の皆様にお集まりいただく企画とした。

〈展示構成と主な展示資料〉

I 暮らしの道具

扇風機、富山の置き薬、消火剤、和傘

II 遊びと勉強

教科書、石板、日光写真、ベーゴマ

III 明かりの道具

行燈、ランプ、電気スタンド

IV 食事の道具

羽釜、かつお節けずり、重箱、徳利

V はかる道具

竿秤、鯨尺、一斗升、看貫ばかり

VI 暖まる道具

練炭、火鉢、湯たんぼ、ミニふいご

VII アイロンの移り変わり

ヨコヅチ、火ごて、炭火アイロン

VIII 洗たくの移り変わり

たらい、洗たく板、カモメホーム洗濯器

総展示数 約110点

〈ワークシート〉

本展覧会では、小学校3、4年生の団体見学が多い。そのため、展示をより深く理解してもらえるようにワークシート(オールカラー・全8ページ)を作成し、無料配布した。シートには民具や農具の写真を掲載しており、その資料を展示物から探し出し、名称を書くようになっている。



○企画展

「新収蔵品展」

〈開催期間〉

令和5年3月11日(土)～5月14日(日)

〈開催日数〉54日(うち令和4年度17日)

〈入館者数〉1,062人(うち令和4年度252人)

〈開催趣旨〉

当館は、郷土和歌山の歴史に関わる資料の収集を行っている。本展覧会では、近年新たに寄贈された資料などを展示し、新収蔵資料と博物館の資料収集活動を紹介する。

〈出陳目録〉

No.	資 料 名	受贈資料
1	陸奥宗光所用トランク	
2	偕楽園画製 南紀男山焼盃	
3	偕楽園焼 雀香合	
4	清寧軒焼 赤楽茶碗	
5	養翠亭焼 染付六角火入	
6	南紀高松焼 染付水指	
7	南紀高松焼 筒花生	
8	瑞芝焼 青磁文房具	
9	瑞芝焼窯場および店頭之図 鈴木雲溪筆	
10	源氏物語図屏風	
11	山水図（漁夫） 祇園南海筆	
12	七絶詩書 祇園南海筆	
13	山水図（月夜） 祇園南海筆	
14	白梅図 祇園尚謙筆	
15	雷公誤落図 松尾塊亭筆	
16	芭蕉と二哲図 松尾塊亭筆	
17	松尾芭蕉図 松尾塊亭筆	
18	糸瓜図 松尾塊亭筆	
19	瓜に鳥図 松尾塊亭筆	
20	雉図 松尾塊亭筆	
21	名高村糺明神并極楽寺地藏堂之由緒	
22	香道免許皆伝書（玉井弘章）	
23	連理香 玉井弘章筆	
24	東山泉殿香座敷図	
25	香書（香合会説・香合記・名香合記）	
26	千首和歌	
27	年中行事図 岩瀬広隆筆	
28	紅葉狩図 岩瀬広隆筆	
29	鉄砲ガニと鶴図 岩瀬広隆筆	
30	加太浦図 岩瀬広隆筆	
31	鬼念仏図 岩瀬広隆筆	
32	南紀高松焼 青磁乙御前香合	
33	偕楽園焼 交趾写牡丹皿	
34	南紀男山焼 交趾写二彩寿字文菓子鉢	

35	南紀男山焼 染付花蝶文手桶形向付	
36	南紀男山焼 染付山水図一重口水指	
37	南紀男山焼 染付捻り文皿	
38	火縄銃	
39	扁額「思露浮緑」 徳川治宝筆	
40	富士図 徳川光貞筆	
41	狗子仏性図 狩野興以筆	
42	鯨図巻	
43	オランダ製 望遠鏡	
44	鷹図 伊藤蘭喙賛	
45	朱竹図 桑山玉洲筆	
46	検見図巻	
47	山水図 上辻木海筆	
48	仏手柑図 上辻木海筆	
49	牡丹図 川合小梅筆	
50	桜花図 坂本浩雪筆	
51	ええじゃないか図	
52	蛙図 鎌田景麟筆	

○ホール展示

・7月5日(火)～7月30日(土)

「和歌山大空襲」

7月9日(土)の映画「和歌山大空襲」上映会にあわせて、和歌山大空襲の関連資料を展示した。

○コーナー展示

常設展示室の民俗部門のコーナー展示スペースで行った。期間、テーマは以下のとおり。

・3月29日(火)～5月29日(日)

「松尾塊亭 一俳画の世界」

・5月31日(火)～7月31日(日)

「江戸時代の府中八幡神社」

・8月2日(火)～10月2日(日)

「かざりの世界 ー金属工芸 1000年ー」

・10月4日(火)～12月4日(日)

「考古学からみた伊太祈曾盆地の歴史」

・12月6日(火)～1月29日(日)

「雑賀衆と根来衆」

- ・1月31日(火)～3月26日(日)
「駿河屋の菓子木型」

2. 教育普及事業

○講座等

1 古文書講座「和歌の浦の古文書を読む～玉津島神社文書を読む～」

好評の古文書講座は、前年度に引き続き5月から令和5年3月まで、原則として月1回第2日曜日に計10回開催した。

2 映画上映会 「映画「和歌山大空襲」と「空襲体験絵巻」

7月9日(土) 10時～11時、14時～15時
午前24人、午後13人

昭和20年7月9日深夜から翌未明にかけての和歌山大空襲のドキュメンタリー映画を上映した。

3 おでかけ歴史講座等

平成30年度から一般の団体からの申込みを受けて、市内各地に学芸員が直接出向き、その地域の歴史や文化財を紹介する「おでかけ歴史講座」を開催している。

10月23日(日)「車駕之古址古墳について」150人
(主催：NPO しゃかのこし。しゃかちゃんコンサート内の講演会)

11月13日(土)「西山東の歴史」(主催：西山東支所) 19人

3月26日(日)「雑賀衆と鷲ノ森遺跡ー紀州の戦国ー」(主催：孫市の会。第19回孫市まつり関連事業としての講演会) 100人

4 史跡散歩

10月22日(土)「平井地区周辺を歩く」 11人
平井遺跡の埴輪窯模型のある平井歴史資料室など、平井周辺を歩くイベントを開催した。

○学習相談会

博物館を活用した学習支援、学習相談会を夏休み期間中に開催した。

8月3日(水)～8月6日(土) 1階ホール
13時～16時 参加者3組(12人)

○出張展示

市役所1階の市民ギャラリーを活用し、7月6日(水)～7月14日(木)に夏季企画展「有吉佐和子と和歌山」を紹介するパネル展示を、また、10月19日(水)～10月25日(火)に秋季特別展「表千家とわかやま」を紹介するパネル展示を行い、来館を促した。

○校区探検

学校と博物館との連携の一環として、市内の小中学校の校区探検を実施している。

2月28日(火) 楠見西小学校 24人

○博物館実習

大学における博物館学芸員資格取得課程の実習として毎年実施している。令和4年度は8月23日～8月27日の5日間で実施し、奈良大学生5名、京都府立大学生1名、和歌山大学生1名、京都女子大学生1名、静岡大学生1名、甲南女子大学生1名、帝京大学生1名、計11名が参加した。

実習内容は以下のとおりである。

8月23日(火) 館内案内

陶磁器の扱い方

近代資料の調査

8月24日(水) 古文書の扱い方

近代資料の調査

8月25日(木) 考古資料の扱い方・梱包

8月26日(金) 刀剣の扱い方
掛軸・巻物の扱い方

8月27日(土) 展覧会の仕方
実習レポート作成

【博物館実習受け入れに関する内規】

1 本館において博物館実習の受講を希望するものは、次のすべてを満たすものに限る。

(1) 受講を希望するものの所属する大学から依頼のあったものであること。

(2) 和歌山県内出身者または和歌山県内の大学に在籍する学生であること。

(3) 専攻分野が人文科学系であること。

(4) 実習を受講する前年までに、博物館法施行規則第1条に掲げる生涯学習概論・博物館概論・博物館経営論・博物館資料論・博物館資料保存論・博物館展示論・博物館教育論・博物館情報・メディア論に相当する課目を履修済みであり、かつこれ以外の科目をすべて当該年に取得できる見込みのあること。

2 実習生の受け入れ定員は20名以内とする。

3 館長が特に認めた場合は、この限りではない。

内規 平成11年4月1日

改正 平成24年4月1日

○ミュージアムボランティア

平成20年度から和歌山大学教育学部からミュージアムボランティアを受け入れている。本年度は希望者なしのため、ボランティアの受け入れがなかった。

○職場体験

平成23年度から中学生の職場体験を受け入れている。中学生としての勤労観、職業観を育成させるため、様々な職場での体験が求められている。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施に至らなかった。

○ウェブサイト・SNS

平成10年度に本館ウェブサイトのを和歌山市ウェブサイト内に開設して以来、コンテンツを改定・補充してきた。その後、平成16年7月から、館として新たに独自ドメインを取得、オリジナルウェブサイトを作成、運営を行うこととした。平成22年度から、ドメイン名の変更とともに、リニューアルを行い、さらに平成30年度末には、大幅なリニューアルを行なった。博物館への問い合わせや図録の購入申込み、展覧会事業の情報などが得られ、各種申請書もダウンロードできるため、アクセス数も着実に増えている。

また、平成26年度から新たな試みとして、和歌山市立博物館公式Twitter(ツイッター)を開設した。定期的に展覧会やイベントの情報を発信しており、フォロワー数も順調に増加している。

博物館ホームページ(令和5年4月現在)

<http://www.wakayama-city-museum.jp/>

和歌山市立博物館公式Twitterアカウント(令和5年4月現在)

@w_city_hakubuts

フォロワー数 5,443

3. 調査研究事業

○職員の執筆文献

前田 敬彦

〈論文〉

2022.8.31「和歌山市における小林国太郎氏の考古学活動について」『紀伊考古学研究』25号、紀伊考古学研究会

2022.12.28「和歌山市加太所在の淡嶋神社所蔵の滑石製模造品について」、『研究紀要』37号、和歌山市立博物館

山下 奈津子

〈図録〉

2022. 11. 5 『表千家とわかやま—紀州藩における交流—』、和歌山市立博物館

〈論文〉

2022. 12. 28 「松尾壘亭再考」、『研究紀要』37号、和歌山市立博物館

〈資料紹介〉

2023. 3. 31 「史料翻刻『類集略記』補—仲間筋編(四)」、『市史研究』50号、和歌山市立博物館

〈コラム〉

2022. 4. 20 「和歌山市立博物館 春季企画展「新収蔵品展」、『美術の窓』2022年5月号、生活の友社

佐藤 顕

〈論文〉

2022. 12. 28 「近世熊野三山における祭神・式内社の比定と神仏分離—本宮を中心に—」、『研究紀要』37号、和歌山市立博物館

2023. 3. 31 「淡島神社の旧神宮寺本尊安置状況の変遷」、『堺市博物館研究報告』第42号、堺市博物館

小橋 勇介

〈論文〉

2022. 12. 28 「戦国期紀伊国における根来寺の在地支配—名草郡和太荘の場合—」、『研究紀要』37号、和歌山市立博物館

2023. 3. 10 「鈴木孫一」、天野忠幸編『戦国武将列伝 8 畿内編下』戎光祥出版

○職員の教育普及活動

前田 敬彦

2022. 10. 23 しゃかちゃんコンサート 「車駕之古址古墳の話」(於・車駕之古址古墳公園)

山下 奈津子

2022. 11. 8 第82回表千家同門会全国大会記念式典 講演「家老の日記にみる紀州藩での江岑宗左」(於・和歌山城ホール)

2022. 11. 20 第42回近畿高等学校総合文化祭和歌山大会茶道部門 講演「江戸時代における和歌山の

茶道について」(於・和歌山城ホール)

2022. 12. 11 移民と美術をめぐるシンポジウム Vol.1 和歌山／アメリカ：研究の「現在地」報告 「ヘンリー杉本とキャンプシーン」(於・和歌山県立近代美術館)

佐藤 顕

2022. 6. 16 和歌山市職員出前講座「和歌山市内の熊野参詣道」(於・高松支所)

2022. 7. 26 いきいきシニアリーダーカレッジ「橋本市内の資料などから見える江戸時代の旅」(於・橋本市保健福祉センター)

小橋 勇介

2022. 8. 28 出前歴史講座「昭和20年の和歌山空襲について」(於・和歌山県立図書館(きのくに志学館))

2022. 10. 28 出前歴史講座「有吉佐和子と和歌山」(於・和歌山県立図書館(きのくに志学館))

2023. 3. 26 第19回孫市まつり 講演「雑賀衆と鷲ノ森遺跡—紀州の戦国—」(於・鷲森別院本堂)

4. 市史資料管理事業

平成4年度末に事業を完了した和歌山市史編纂事業を引き継いだ事業である。主な業務は、『和歌山市史』の販売、他都市との交換市史の受入、市史編纂過程で蒐集した資料の保存と整理、保存資料の活用方法の調査研究などである。令和4年度は、当館所蔵資料の史料翻刻を『市史研究』50号に掲載した。

5. 博物館基本計画の取組

当館は、歴史博物館としての機能を発揮し利用者増を図っていくことを目指し、今後の取組、施設の機能改善、管理運営の改善等について「和歌山市立博物館基本計画」を令和2年11月に策定した。基本計画にある、基本方針2「親しまれ、楽しく学べ

る博物館」や基本方針4「観光やまちづくりと連携した博物館」を実現するため、国の補助金等を活用し、リニューアル等を行っていく。

本年度は、博物館基本計画の主な取組29項目のうち10項目を実施し、16項目は一部を実施した。

基本方針1「歴史・文化の拠点」としての博物館では、紀州徳川家や有吉佐和子など地域の歴史・文化を特別展・企画展で資料公開し、徳川吉宗関係の新資料の展示とSNS（ツイッター）での情報発信などを積極的に実施した。

基本方針2「親生まれ、楽しく学べる博物館」では古文書講座（年10回程度）のほか、市役所1階市民ギャラリー等で出張パネル展示を実施した。

基本方針3「人を育てる博物館」では、夏休み期間に「子ども歴史学習相談会」を5日間開催し、若年層の来館増加に取り組んだ。また、ぬり絵を複数公開し、楽しみながら歴史に触れる機会を増やした。

基本方針4「観光やまちづくりと連携した博物館」では、玄関ホールに市内の文化財や文化施設の情報（チラシ・パンフレット）を集約した「和歌山の歴史・文化の情報コーナー」を設置し、SNS（ツイッター）で情報発信し、周遊を促進した。また、平井地区で史跡散歩を実施し、平井歴史資料室と連携しながら、歴史文化の魅力を伝えた。

Ⅱ 収蔵資料概要

1. 受贈資料概要

本年度は7名1団体の方から資料をご寄贈いただいた。資料は大切に保存し今後の展示等に活用したい。

- ・和歌山ロータリークラブ 「偕楽園焼 雀香合」はじめ7件
- ・渡土晴美氏 「山本養和筆 群鳥図」
- ・駿河栄子氏 「本居宣長筆 三十六歌仙短冊」
- ・上田隆氏 「津田出書 七言絶句」
- ・楠見耕介氏 楠見家文書 一括

- ・若林保宏氏 旧谷口家資料 一括
- ・小野田光恭氏 「徳川頼倫書」はじめ4点
- ・松江茂樹氏 下和佐地区農業構造改善事業関係書

2. 資料の貸出

本年度の資料の館外貸出（展覧会への出陳等）は、125件であった。貸出先、展覧会名称、会期、貸出資料等は以下のとおりである。

●わかやま歴史館

常設展示（4月1日～令和4年3月31日）

- ・「陸奥宗光書簡 由良守応宛」はじめ35件
- 夏の企画展示「三浦為脩～紀州徳川家から養子入りした家老～」(7月26日～9月5日)
- ・「三浦家系図傳 完」はじめ8件

●和歌山県立博物館

企画展「幕末から明治のきのくに文人画―偉大なる師、野呂介石を慕いて―」(6月11日～7月10日)

- ・「梅竹図蒔絵弁当重箱 野呂介石・阪上淇澳下絵」
- ・「介石画話 吳芝岳著・野際白雪校訂」
- ・「四碧斎画話 西郷石鷗・野際白雪・吳芝岳著」
- 特別展「濱口梧陵と廣八幡宮―法蔵寺・養源寺・安楽寺の文化財とともに―」(10月15日～11月23日)

- ・「菊地海荘像」はじめ6件

企画展「川とともに生きる―川と人の関係史」(3月11日～4月16日)

- ・「吉野和歌浦真景図巻」
- ・「紀の川河口絵図」
- ・「和歌山汐入川筋川浚計画図」

●紀伊風土記の丘

秋期特別展「紀氏、大地を開く―宮井用水と耕地開発」(10月1日～12月4日)

- ・「紀伊国造次第」はじめ11件

●堺市博物館

企画展「人とモノが行き交う中世・堺」(7月12日～10月10日)

- ・「沖ノ島北方海底遺跡出土青磁香炉」はじめ 27 件

●大阪歴史博物館 古代歴史文化協議会

展覧会「刀剣～古代の武といのり～」(10月15日～12月4日)

- ・「大谷古墳出土馬冑」はじめ 31 件

●徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

企画展「鳥居龍蔵をめぐる人々ー世界に広がる学知のネットワークー」(2月4日～3月12日)

- ・「徳川頼倫旧蔵写真」(14点)

3. 映像資料概要

本館の常設展示室には、原始・中世・近世・近代の各コーナーに4台のビデオ放映器(VTD)と、民俗コーナーに1台のビデオプロジェクターを設置している。

VTDは、シリコンディスク使用のパソコンとタッチパネル式の19インチモニターを採用し、モニター画面を手で触れることで映像を選択できるようになっている。

ビデオプロジェクターもシリコンディスク仕様のパソコンと100インチの平面スクリーンを設置し、照光式のボタン式スイッチで映像を選択できるようになっている。

映像については、それぞれ3分前後の内容を数本収録し、視覚的な紹介をしている。各コーナーの収録番組は以下のとおり。

原始：弥生時代の太田・黒田遺跡

太田・黒田の銅鐸

大谷古墳の発掘

中世：柿田(笠田)荘の荘園絵図

中世の遺跡をたずねて

津田監物と鉄砲

雑賀鉢の謎

絵画にみる太田城水責め

近世：あるく みる城下町

和歌山城の門

八代将軍徳川吉宗 ーその武と雅ー

城下町和歌山の文化

紀州藩と茶道

紀州の黒船ディアナ号

近代：昭和初年への旅立ち

ーその頃の和歌山はー

戦争で子どもたちまで勤労働員

和歌山大空襲

和歌山城の再建

民俗：雛流し 淡島神社

和歌祭 紀州東照宮

茅の輪祭 伊太祁曾神社

団七踊 岡崎団七踊保存会

木ノ本の獅子舞 木本八幡宮

III 令和5年度の展望

1. 令和5年度事業予定概要

平成26年度に博物館の基本的運営方針を策定し、令和2年11月には、博物館基本計画を策定し、ウェブサイトにおいて公開している。令和5年度は、「博物館基本計画」に基づき、市民により親しまれる博物館づくりを目指し、さまざまな取組を実施する。

常設展

令和5年度も常設展の展示資料の入れ替えを積極的に実施するとともに、常設展示室の一角に、2か月ごとに展示替えを行う展示コーナーを設け、計画的に展示替えを行う。そのほか、エントランスホールでは、随時にタイムリーなテーマでホール展示を開催し、収蔵資料を公開する機会を増やしていく。

コーナー展示

・3月28日～5月28日

「有吉佐和子と和歌山ー春ー」

- ・5月30日～7月30日
「徳川家康・頼宣の重臣 安藤直次」
- ・8月1日～10月1日
「紀の川北岸の古墳」
- ・8月1日～10月1日
「紀の川南岸の古墳」
- ・12月5日～1月28日
「幕末・明治の女流画家 川合小梅」
- ・1月30日～3月25日
「有吉佐和子と和歌山一冬」

特別展

10月28日から12月10日まで、特別展「葛城修験の世界」を開催する。令和2年に日本遺産に認定された葛城修験について、その歴史や内容の実態を伝える。令和3年度から和歌山市内の葛城修験に係る仏像・神像を収める寺院の調査を行っており、本展覧会ではそれらの成果を公表して、新たな葛城修験の歴史像を提示する。

企画展

和歌山市に関する人物や収蔵資料等を市民に紹介するため、令和5年の初夏・夏・秋・冬、令和6年の春の5回の企画展を開催する。

企画展 「弥生・古墳時代のムラー市内津秦・井辺・神前周辺」を5月30日から6月18日まで開催する。和歌山市内で行われた発掘調査の結果を発掘資料とともに紹介する。

夏季企画展 「しはくどうぶつえん」を7月19日から9月3日まで開催する。夏休みの子供たちを対象とする展覧会で、動物が登場する資料を紹介する。わかりやすい内容で子どもたちの関心を引いて、和歌山市の歴史や文化の理解を深めてもらう。

秋季企画展 「ヘンリー杉本の描いた日系人収容所」を9月16日から10月9日まで開催する。和歌山出身の画家でアメリカに渡ったヘンリー杉本を中心とした展示会を行う。

冬季企画展 「歴史を語る道具たち」を令和6年

1月16日から3月3日まで開催する。和歌山で実際に使われていた道具の展示により昔のくらしの実態を示し、人びとの生活の智恵と工夫を理解してもらうものである。本展は学校教育との連携で、小学校3年生の社会科の授業に関連させた展示である。

企画展 「花鳥風月一和歌山市立博物館収蔵美術品展」を令和6年3月16日から5月12日まで開催する。当館が所蔵する資料から、植物や風景に関する美術品を紹介する。

古文書講座等

古文書講座は、原則として月1回第2日曜日に年間計10回開催する。テーマは「紀州と泉州の国境の古文書を読む」を予定している。

また、平成30年12月から開始した、学芸員が市内各地に出向き、その地域の歴史や文化財をわかりやすく紹介する「博物館おでかけ歴史講座」は今年度も引き続き、随時開講する。

映画会は、7月に和歌山大空襲に関する記録映画を上映する。

校区探検

当館では、市内小学校及び校区子どもセンターと協力し、校区内の歴史的スポットを見学する校区探検を開催している。

調査研究

本年度は、特別展「葛城修験の世界」及び企画展「しはくどうぶつえん」に関する調査研究を中心に、その成果は展示資料や図録、研究紀要等に反映させる。また、特別展の年次計画に基づいて、令和6年度の展覧会の調査を進めていく。それ以降の年度に開催する予定の展覧会についても基礎調査を開始する。

そのほか、館蔵資料及び関連資料の調査研究を進め、その成果を『研究紀要』第38号に掲載する。

資料収集

収蔵資料の充実を図るために、資料の寄贈・寄託を積極的にすすめていく。

燻 蒸

資料の保存環境を維持するため、当館では毎年燻蒸（消毒）を実施している。本年度は、3階特別収蔵庫の燻蒸を、6月27日～7月2日までの期間に実施する。

市史関係資料の管理

保管している市史関係資料の整理を進め、資料的価値が高い文書史料の翻刻を行う。その成果を『市史研究』第51号に掲載する。

博物館実習

各大学からの依頼を受けて、毎年、博物館実習生を受け入れている。本年度は、8月22日から26日までの5日間、博物館実習を行う。なお、受け入れに関する要項は、前掲の「博物館実習受け入れに関する内規」とおりである。

2. 令和5年度博物館当初予算

歳入

(単位 千円)

目	本年度	前年度	比較	節	
				区 分	金 額
総務使用料	1,851	1,411	440	博 物 館 使 用 料	1,851
基金収入	2	2	0	博 物 館 振 興 基 金 収 入	2
雑入	1,536	1,461	75	博 物 館 図 録 等 販 売 収 入	1,536
総務費交付金	1,839	1,425	414	文 化 ス ポ ー ツ 費 交 付 金	1,839

歳出

(単位 千円)

目	本年度	前年度	比較	本年度の財源内訳				節	
				特定財源			一般財源	区 分	金 額
				国県支出金	地方債	その他			
博物館費	79,825	78,868	957	1,839		3,389	74,597	1 報 酬	94
								2 給 料	18,137
								3 職 員 手 当 等	10,192
								4 共 済 費	6,006
								7 報 償 費	236
								8 旅 費	49
								10 需 用 費	18,513
								11 役 務 費	1,785
								12 委 託 料	24,200
								13 使用料及び賃借料	532
								17 備 品 購 入 費	30
								18 負担金、補助及び交付金	35
								24 積 立 金	2
								26 公 課 費	14

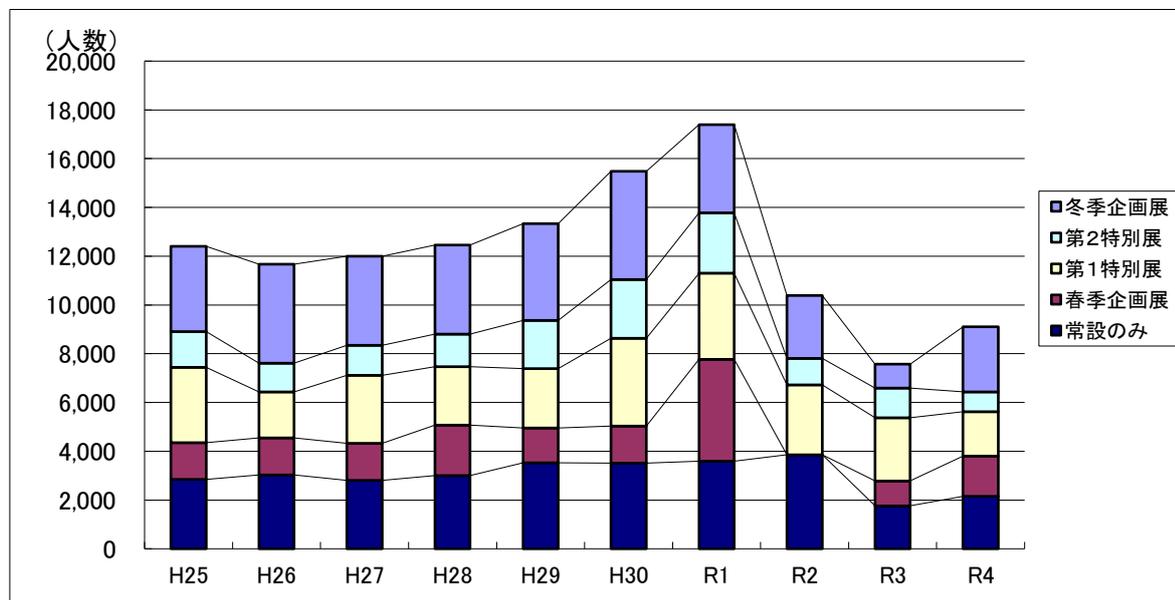
IV 資料

○入館者の動向

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

	開館 日数	個人(一 般/大)	団 体・まちなか			無 料 入館者 (含団体)	合 計	1日 平均	備 考
			一般/大	まちなか	小計				
令和4年 4月	25	104	0	12	12	166	282	11.3	春季企画展 3/12～5/15
5月	25	188	45	20	65	209	462	18.5	
6月	26	248	30	17	47	321	616	23.7	夏季企画展 6/4～8/14
7月	27	303	30	25	55	392	750	27.8	
8月	23	224	0	36	36	284	544	23.7	
9月	21	109	43	22	65	125	299	14.2	秋季企画展 9/17～10/16
10月	26	188	0	18	18	720	926	35.6	
11月	24	187	550	92	642	836	1,665	69.4	秋季特別展 11/5～12/4
12月	24	137	0	54	54	233	424	17.7	
令和5年 1月	24	113	0	15	15	1,310	1,438	59.9	冬季企画展 1/11～2/26
2月	23	162	0	19	19	1,167	1,348	58.6	
3月	26	148	0	24	24	173	345	13.3	企画展 3/11～5/14
合計	294	2,111	698	354	1,052	5,936	9,099	30.9	

過去10年間の入館者数の変化



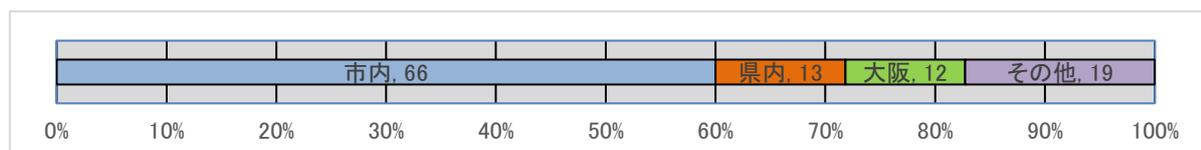
	常設のみ	春季企画展	第1特別展	第2特別展	冬季企画展	総入館者数
平成25年		「博物館へ花見 に行こう」	「市電が走って いた街」	「海人の世界」	歴史を語る道具 たち	
	2,851	1,496	3,093	1,474	3,487	12,401
平成26年		わかやま歴史再 発見	江戸時代を観光 しよう	荘園の景観と絵 図	歴史を語る道具 たち	
	3,025	1,525	1,881	1,175	4,062	11,668
平成27年		古文書から探 れ！	表千家と紀州徳 川家	近代スポーツと 国民体育大会	歴史を語る道具 たち	
	2,806	1,525	2,787	1,223	3,661	12,002
平成28年		徳川吉宗と紀州 の明君	城下町和歌山の 絵師たち	玉津島一衣通姫 と三十六歌仙一	歴史を語る道具 たち	
	3,004	2,062	2,398	1,336	3,572	12,372
平成29年		紀州の風景一和 歌の浦を中心に 一	幕末の紀州藩	美し善極める 一駿河屋の菓子木 型一	歴史を語る道具 たち	
	3,525	1,434	2,424	1,983	3,967	13,333
平成30年		和歌浦には名所 がござる	お殿様の宝箱一南 葵文庫と紀州徳川 家伝来の美術一	和歌山城再発見	歴史を語る道具 たち	
	3,520	1,513	3,594	2,420	4,432	15,479
令和元年		写真にみる和歌山市 の歩み/中畑艸人	徳川頼宣と紀伊徳川 家の名宝	雑賀衆と鷲ノ森遺跡一 紀州の戦国一	歴史を語る道具 たち	
	3,589	※4186	3,527	2,479	3,616	17,397
令和2年		総持寺の至宝	紀三井寺展	ヘンリー杉本の世 界(夏季企画展)	歴史を語る道具 たち	
	3,857	中止	2,864	1,086	2,575	10,382
令和3年		総持寺の至宝	加太淡嶋神社展一 女性・漁民の祈り一	アッ！と驚く意外な 歴史(夏季企画展)	歴史を語る道具 たち	
	1,764	1,022	2,588	1,218	977	7,569
令和4年		有吉佐和子と和 歌山(夏季企画 展)	表千家とわかやま 一紀州藩における 交流一	発掘された江戸時 代の暮らし(秋季企 画展)	歴史を語る道具 たち	
	2,152	1,654	1,817	815	2,661	9,099

※春季企画展と夏季企画展の合計人数

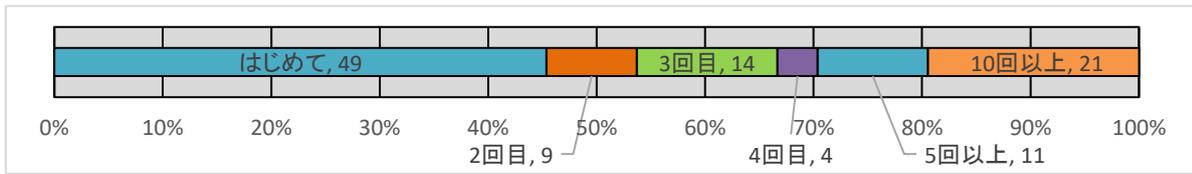
○アンケートの集計

令和4年度の特別展開催時に回収されたアンケートの集計結果を提示する。期間中の総入館者は1,817名、アンケート数は111通（回収率：6.1%）。

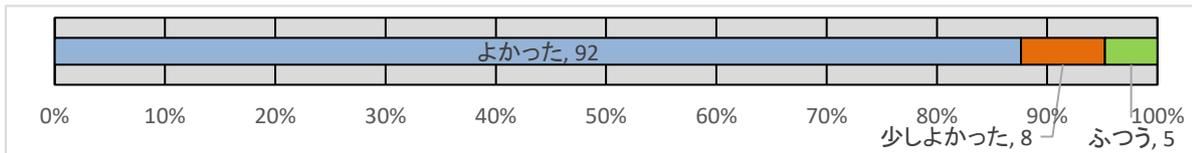
1. どちらから来られましたか？



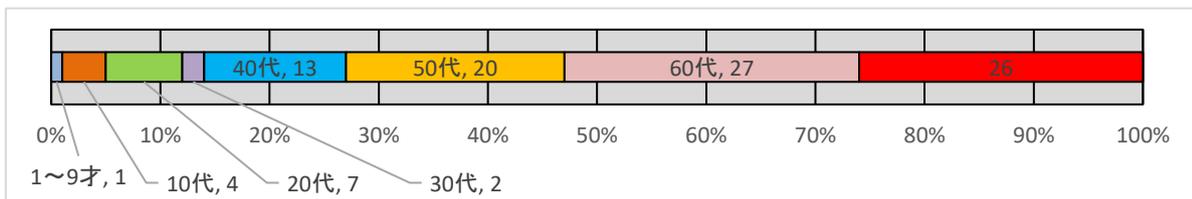
2. 来館は何回目ですか？



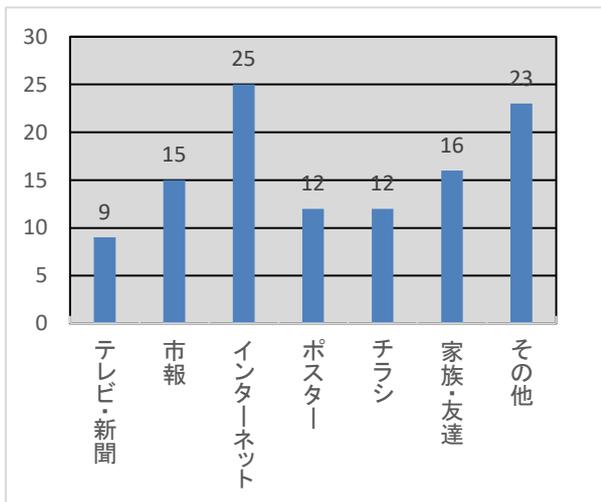
3. 展示はいかがでしたか？



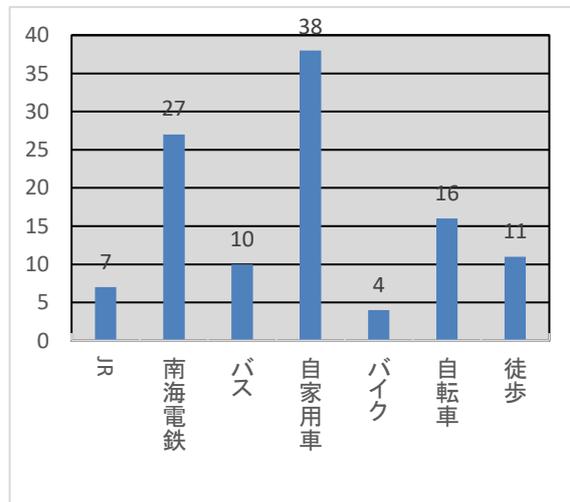
4. 年齢は？



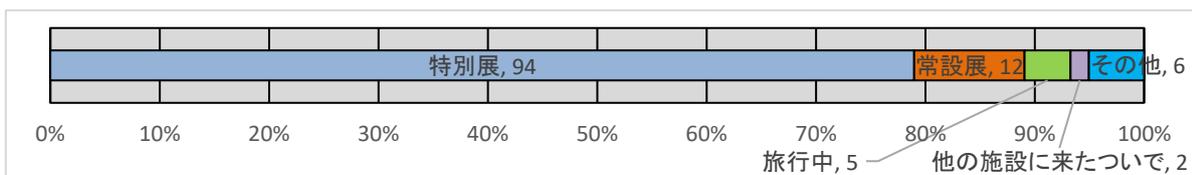
5. どのようにしてお知りになりましたか？



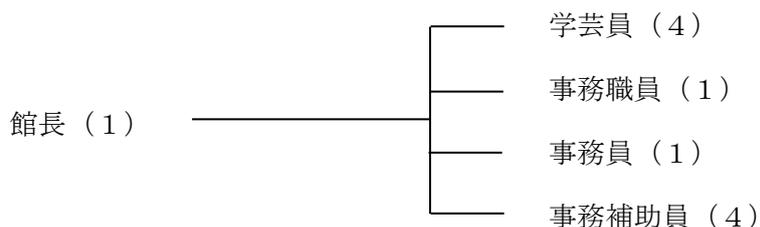
6. 利用された交通機関は？



7. 来館の目的は？



○館機構（令和5年5月1日現在）



○博物館職員（令和5年5月1日現在）

館長 前田 敬彦（再任用職員）
 学芸員 佐藤 顕
 学芸員 山下 奈津子
 学芸員 小橋 勇介
 学芸員 新井 美那
 事務副主査 前端 麻未
 事務員 有村 彩子
 事務補助員 宇治田 良一
 事務補助員 浅山 静代
 事務補助員 泉 江里子
 事務補助員 櫻井 友佳理（兼務職員）

○和歌山市立博物館協議会委員名簿

令和5年3月31日現在

	氏名	役職	備考
学校教育の 関係者	塩谷 通功	和歌山市小学校長会 会長	R5.1.31 再任
	高木 康子	和歌山市中学校長会 会長	R5.1.31 再任
社会教育等 の関係者	宗 眞紀子	和歌山市婦人団体連絡協議会 会長	R5.1.31 再任
	森本 光子	和歌山文化協会 会長	R5.1.31 再任
学識経験の ある者	上村 雅洋	和歌山大学 名誉教授	R5.1.31 再任
	木村 博信	和歌山リビング新聞社 事業部長	R5.1.31 再任
	渡辺 康子	日本放送協会和歌山放送局 局長	R5.1.31 再任
	島津 俊之	和歌山大学教育学部 教授	R5.1.31 再任
	高橋 隆博	関西大学 名誉教授	R5.1.31 再任
	西本 昌弘	関西大学文学部 教授	R5.1.31 再任
	原田 利宣	和歌山大学システム工学部 教授	R5.1.31 再任
藤本 清二郎	和歌山大学 名誉教授	R5.1.31 再任	

○和歌山市立博物館条例

昭和60年7月18日条例第17号

改正 平成元年12月21日条例第66号

平成9年3月27日条例第18号

平成12年3月27日条例第24号

平成19年3月22日条例第13号

平成20年12月24日条例第68号

平成23年12月19日条例第40号

平成24年3月23日条例第23号

平成26年3月24日条例第48号

平成27年3月19日条例第31号

平成30年3月23日条例第6号

平成31年3月22日条例第32号

令和元年12月23日条例第39号

令和3年6月23日条例第28号

令和5年3月17日条例第12号

(設置)

第1条 本市は、郷土の歴史、文化遺産等に関する市民の理解と認識を深めるとともに、教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を設置する。

(名称及び位置)

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
和歌山市立博物館	和歌山市湊本町3丁目2番地

(事業)

第3条 博物館は、博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第3条第1項各号に掲げる事業その他必要な事業を行う。

(入館料)

第4条 常設展の入館料の額は、100円(20人

以上の団体にあつては、1人につき80円)とする。

2 特別展の入館料の額は、2,090円とする。

ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、減額することができる。

3 第1項の規定にかかわらず、次に掲げる者の入館(常設展に係るものに限る。)は、無料とする。

(1) 学校(学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校(大学及び高等専門学校(第4学年及び第5学年に限る。))を除く。)をいう。第4号において同じ。)に在学する学生、生徒、児童又は幼児(同号において「学生等」という。)

(2) 認定こども園(就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(平成18年法律第77号。第4号において「認定こども園法」という。)第2条第6項に規定する認定こども園をいう。第5号において同じ。)の園児(以下この項において単に「園児」という。)

(3) 小学校就学前の者(第1号に規定する幼児及び園児を除く。)

(4) 学生等又は園児を教育課程に基づく教育活動又は保育に係る活動において引率する当該学生等が在学する学校又は当該園児が在籍する幼保連携型認定こども園(認定こども園法第2条第7項に規定する幼保連携型認定こども園をいう。次号において同じ。)の教員(学校教育法第7条(認定こども園法第26条において準用する場合を含む。)に規定する教員をい

う。)

(5) 保育所に入所している児童又は園児を保育に係る活動において引率する当該児童が入所している保育所の保育士又は当該園児が在籍する認定こども園(幼保連携型認定こども園を除く。)の保育に従事する職員

4 入館料は、前納しなければならない。

(入館料の減免)

第5条 市長は、特別の理由があると認めるときは、入館料を減額し、又は免除することができる。

(資料の特別使用)

第6条 博物館資料について、刊行物に掲載し、又は展示することを目的として、撮影し、若しくは複写し、又は博物館資料に係る写真原板等の貸与若しくは画像等の提供を受けること(以下「特別使用」という。)をしようとする者は、あらかじめ市長に申請し、その許可を受けなければならない。

2 市長は、次の各号のいずれかに該当するときは、前項の許可をしない。

- (1) 博物館資料の保全上支障があるとき。
- (2) 博物館の管理上支障があるとき。
- (3) 特別使用に係る博物館資料が寄託されたものである場合に、前項の規定による申請をする者(次号において「申請者」という。)が当該博物館資料を寄託した者の同意を得ていないとき。
- (4) 特別使用に係る博物館資料に著作権者がある場合に、申請者が当該著作権者の同意を得ていないとき。

(5) その他市長が不相当と認めるとき。

3 市長は、第1項の許可に必要な条件を付することができる。

4 第1項の許可を受けた者(次条において「特別使用者」という。)は、別表に定める額の使用料(以下「特別使用料」という。)を前納しなければならない。

5 市長は、学術研究その他の公益性の高い目的を達成するために特別使用をする必要があると認めるときは、特別使用料を免除することができる。(特別使用の許可の取消し等)

第7条 市長は、特別使用者が前条第3項の規定により許可に付された条件に違反したときは、当該許可を取り消し、又は特別使用を制限し、若しくは停止させることができる。

(入館料等の不還付)

第8条 既納の入館料及び特別使用料は、還付しない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

(入館等の制限)

第9条 市長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を拒絶し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になるおそれがある者
- (2) 他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になるおそれがある物又は動物を携帯する者
- (3) 建物又は附属設備若しくは備品(以下「建物等」という。)を損傷し、又は滅失するおそれがある者

(4) 次条の規定に違反した者

(行為の禁止)

第10条 博物館においては、次に掲げる行為をしてはならない。

(1) 火災、爆発その他危険を生ずるおそれがある行為をすること。

(2) 騒音又は大声を発し、暴力を用い、その他他人の迷惑になる行為をすること。

(3) 建物等を損傷し、若しくは滅失し、又はこれらのおそれがある行為をすること。

(4) 所定の場所以外の場所で飲食し、又は喫煙すること。

(5) その他管理上支障がある行為をすること。

(損害の賠償)

第11条 何人も、建物等を損傷し、又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。

(駐車場の供用時間等)

第12条 駐車場の供用時間は、0時から24時までとする。

2 駐車場に自動車を入場させ、又は出場させることができる時間（以下この項において「入出場可能時間」という。）は、8時30分から博物館の閉館の1時間後までとする。ただし、市長が特に必要があると認めるときは、入出場可能時間を変更することができる。

(駐車場の休場日等)

第13条 駐車場の休場日は、博物館の休館日とする。ただし、市長が特に必要があると認めるときは、臨時に開場し、又は休場することができる。

(駐車場の供用休止等)

第14条 市長は、駐車場の整備その他必要があると認めるときは、駐車場の供用を休止し、又は制限することができる。

(車両制限)

第15条 駐車場に駐車することができる自動車は、道路交通法（昭和35年法律第105号）第3条に規定する普通自動車で、次の表に定めるものとする。

高さ	幅	長さ	重量（積載物を含む。）
2.0メートル以下	1.8メートル以下	4.7メートル以下	2.0トン以下

(駐車場の使用料)

第16条 駐車場を使用する者は、自動車を出場させる際に、使用料を納付しなければならない。

2 前項の使用料の額は、次の表の左欄に掲げる使用料の種類に応じ、同表の右欄に定める額とする。

使用料の種類	金額
普通駐車場使用料	駐車時間が1時間までの場合にあつては110円、駐車時間が1時間を超える場合にあつては110円にその超える時間30分までごとにつき160円を加えた額
夜間駐車場使用料	650円
備考	1 駐車場に自動車を入場させた日において、博物館の閉館の1時間後までに出場させた場合における駐車場の使用料の上限額は、1,070円とする。 2 夜間駐車場使用料は、博物館の閉館の1時間後（休場日にあつては、18時）から翌8時30分までの間における自動車の駐車について適用する。

(和歌山市営駐車場条例の準用)

第17条 駐車場の管理については、和歌山市営駐

車場条例（昭和46年条例第39号）第6条、第7条、第8条、第9条及び第12条の規定を準用する。この場合において、同条例第6条（見出しを含む。）及び第7条（見出しを含む。）中「駐車料金」とあるのは「駐車場の使用料」と、同条例第12条第2項第4号中「第2条の3第2項」とあるのは「和歌山市立博物館条例（昭和60年条例第17号）第14条」と読み替えるものとする。

（博物館協議会の設置）

第18条 法第23条第1項の規定に基づき、和歌山市立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（委員の任命の基準）

第19条 協議会の委員の任命は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちからこれを行うものとする。

（委員の定数）

第20条 委員の定数は、15人以内とする。

（委員の任期）

第21条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第22条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、副会長がその職務を代理する。

（会議）

第23条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

2 協議会は、必要に応じて開催するものとする。

3 会長は、協議会を招集しようとするときは、あらかじめ会議の日時、場所及び付議すべき事項を示して委員に通知しなければならない。ただし、急施を要する場合は、この限りでない。

4 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

5 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（庶務）

第24条 協議会の庶務は、産業交流局文化スポーツ部において処理する。

（規則への委任）

第25条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、昭和60年11月1日から施行する。

附 則（平成元年12月21日）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成9年3月27日）

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成12年3月27日）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成19年3月22日）

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年12月24日）

この条例は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成23年12月19日）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月23日）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月24日）

- 1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この条例による改正後の和歌山市立博物館条例別表の規定は、この条例の施行の日以後に許可をする特別使用に係る使用料について適用し、同日前に許可をした特別使用に係る使用料については、なお従前の例による。

附 則（平成27年3月19日）

この条例は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成30年3月23日）

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年3月22日）

- 1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。
- 2 この条例による改正後の和歌山市立博物館条例別表の規定は、この条例の施行の日以後に許可をする特別使用に係る使用料について適用し、同日前に許可をした特別使用に係る使用料については、なお従前の例による。

附 則（令和元年12月23日）抄
（施行期日）

- 1 この条例は、令和2年4月1日から施行する。
（経過措置）
- 3 この条例の施行の際現に前項の規定による改正前の和歌山市立博物館条例（以下「旧条例」という。）の規定により教育委員会がした処分その他

の行為は、同項の規定による改正後の和歌山市立博物館条例（以下「新条例」という。）の相当規定により市長がした処分その他の行為とみなす。

- 4 この条例の施行の際現に旧条例の規定により教育委員会に対してされている申請その他の手続は、新条例の相当規定により市長に対してされた申請その他の手続とみなす。
- 5 この条例の施行の際現に旧条例の規定による和歌山市立博物館協議会（以下「旧協議会」という。）の委員である者は、この条例の施行の日、市長が任命したものとみなす。この場合において、その者の任期は、新条例第15条第1項の規定にかかわらず、この条例の施行の日における旧協議会の委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

附 則（令和3年6月23日）

この条例は、令和3年10月1日から施行する。

附 則（令和5年3月17日）

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表（第6条関係）

特別使用料

区分	単位	使用料
博物館資料の撮影又は複写（博物館資料の貸与を伴うものを含む。）	1点1回	2,090円
博物館資料に係る写真原板の貸与	1枚1回	2,090円
博物館資料に係る画像情報を収録した光ディスク等の貸与	1画像1回	2,090円
博物館資料に係る写真の提供	1点1回	2,090円
博物館資料に係る画像情報の電磁的方法による提供	1画像1回	2,090円

備考 複数の物で構成されるものであっても、博

博物館資料を分類する上で1点として取り扱うものは、1点とする。

○和歌山市立博物館条例施行規則

令和2年4月1日

規則第50号

改正 令和3年9月30日規則第90号

(趣旨)

第1条 この規則は、和歌山市立博物館条例(昭和60年条例第17号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間等)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、入館は、午後4時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、市長が必要と認めるときは、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、市長が特に必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

(1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、その翌日)

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日の翌日

(3) 12月29日から翌年1月3日まで

(入館料の納付)

第4条 条例第4条第1項又は第2項の規定により入館料を納めた者は、入館券(別記様式第1号)の交付を受けなければならない。

(特別展の入館料)

第5条 条例第4条第2項ただし書の規定により減額する場合における特別展の入館料の額は、特別展に要する費用の額その他の事情を考慮してその都度市長が定める。

(入館料の減免)

第6条 条例第5条に規定する特別の理由があるときは、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額する入館料の額又は免除は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定めるとおりとする。

(1) 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者、療育手帳(知的障害者の福祉の充実を図るため、児童相談所又は知的障害者更生相談所において知的障害と判定された者に対して支給される手帳で、その者の障害の程度その他の事項の記載があるものをいう。次条において同じ。)の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びそれらの者の介護人が介護のために入館するとき 免除

(2) 本市が発行する老人優待利用券の交付を受けている者が入館するとき 免除

(3) その他市長が特別の理由があると認めるとき 市長が必要と認める額

(入館料の減免申請)

第7条 条例第5条の規定による入館料の減額又は免除を受けようとするときは、次の各号に掲げる

場合の区分に応じ、当該各号に定める書類を市長に提示（第3号にあっては、提出）しなければならない。

- (1) 前条第1号に掲げる者 同号に規定する身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳
- (2) 前条第2号に掲げる者 同号に規定する老人優待利用券
- (3) 前条第3号に該当する者 入館料減額・免除申請書（別記様式第2号）
（特別使用許可の申請及び許可）

第8条 条例第6条第1項の規定により特別使用の許可を受けようとする者は、博物館資料特別使用許可申請書（別記様式第3号）を市長に提出しなければならない。この場合において、当該博物館資料が寄託されたものであるときにあっては寄託した者の承諾書の写しを、当該博物館資料に著作権者がある場合にあっては当該著作権者の承諾書の写しを添付しなければならない。

2 市長は、特別使用の許可をしたときは、博物館資料特別使用許可書（別記様式第4号）を当該申請者に交付する。

（特別使用料の免除申請）

第9条 条例第6条第5項の規定により特別使用料の免除を受けようとする者は、前条第1項に規定する申請の際に、博物館資料特別使用料免除申請書（別記様式第5号）を市長に提出しなければならない。

（入館料の還付）

第10条 入館料を還付する場合における条例第8条ただし書に規定する特別の理由があるときは、

次の各号に掲げるときとし、還付する入館料の額は、当該各号に定める額とする。

- (1) 天災地変その他入館しようとする者の責めに帰することができない理由により入館できないとき 全額
- (2) その他市長が特別の理由があると認めるとき 市長が認める額
（特別使用料の還付）

第11条 特別使用料を還付する場合における条例第8条ただし書に規定する特別の理由があるときは、次の各号に掲げるときとし、還付する特別使用料の額は、当該各号に定める額とする。

- (1) 特別使用者の責めに帰することができない理由により特別使用ができないとき 全額
- (2) その他市長が特別の理由があると認めるとき 市長が認める額
（管理上の支障がある行為）

第12条 条例第10条第5号に規定する管理上の支障がある行為は、次の各号に定める行為とする。

- (1) 展示している博物館資料（館長が特に指定したものを除く。）に触れる行為
- (2) 許可を受けなくて、展示している博物館資料の模造、模写又は撮影をする行為
- (3) 展示室でインク、墨汁等博物館資料を汚損するおそれのあるものを使用する行為
- (4) 係員の指示に従わない行為
（博物館資料の整理）

第13条 収集した資料は、資料番号を付し、博物館資料として整理するものとする。

（博物館資料の館外貸出し）

第14条 博物館資料は、館外貸出しを行わないものとする。ただし、学術上の調査研究等のために使用され、かつ、取扱上の安全性が確保されると認められるとき、又は特別使用のために必要と認められるときは、この限りでない。

2 前項ただし書の規定により博物館資料の館外貸出しを受けようとする者は、博物館資料貸出許可申請書（別記様式第6号）を市長に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、博物館資料が寄託されたものであるときは、当該博物館資料を寄託した者の承諾書の写しを添付しなければならない。

3 市長は、前項の規定により博物館資料の館外貸出しを許可したときは、当該申請者に博物館資料貸出許可書（別記様式第7号）を交付する。

（駐車場の使用料の減免）

第15条 条例第17条において読み替えて準用する和歌山市営駐車場条例（昭和46年条例第39号）第6条の規定により駐車場の使用料を減額し、又は免除する場合においては、和歌山市営駐車場条例施行規則（昭和46年規則第26号の2）第6条の規定を準用する。この場合において、同条第6号中「市長が別に定める額」とある

のは、「駐車場の使用料の5割に相当する額」と読み替えるものとする。

2 条例第17条において読み替えて準用する和歌山市営駐車場条例第6条の規定により駐車場の使用料の減額又は免除を受けようとする者は、その自動車を出場させるまでに前項の規定により準用する和歌山市営駐車場条例施行規則第6条各号に該当することを証する書類を市長に提示しなければならない。

（雑則）

第16条 この規則で定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（令和3年9月30日）

この規則は、和歌山市立博物館条例の一部を改正する条例（令和3年条例第28号）の施行の日から施行する。ただし、第12条の改正規定は、公布の日から施行する。

（施行の日＝令和3年10月1日）

（別記様式第1号から第7号は省略する。）

令和4年度
和歌山市立博物館館報 38

令和5年5月1日発行
編集 和歌山市立博物館
和歌山市湊本町3丁目2
TEL 073-423-0003
FAX 073-432-9040
発行 和歌山市
和歌山市七番丁 23